

特別活動を要としたキャリア教育の研究  
～宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの開発と活用を通して～

宮崎市立宮崎小学校  
教諭 古小路 祐一郎

目 次

I	研究主題	1 - 1
II	主題設定の理由	1 - 1
III	研究目標	1 - 2
IV	研究仮説	1 - 2
V	研究内容	1 - 2
VI	研究計画	1 - 2
VII	研究構想	1 - 3
VIII	研究の実際	1 - 4
1	宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの開発	1 - 4
(1)	例示資料の分析	1 - 4
(2)	各学校の実態に応じてカスタマイズできる「キャリア・パスポート」モデル	1 - 5
2	宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの活用（宮崎小学校における実践）	1 - 8
(1)	宮崎小学校版「キャリア・パスポート」へのカスタマイズの実践	1 - 9
(2)	宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した指導の工夫	1 - 10
IX	考察	1 - 16
X	研究のまとめ	1 - 19
	参考・引用文献等	1 - 20

## I 研究主題

特別活動を要としたキャリア教育の研究

～宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの開発と活用を通して～

## II 主題設定の理由

今日、AI、人生100年時代というキーワードに代表されるように、日本の社会システムが大きく変容しつつある。このような時代において、児童生徒が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること等、たくましく生き抜く力を身に付けることが必要になっている。

こうした状況を踏まえ、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)総則では、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ることが示された。そのため、特別活動第2〔学級活動〕2内容(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」(以下 学級活動(3))、3内容の取扱いに「学級活動(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際に、児童が活動を記録し蓄積する教材を活用すること。」が新たに設けられた。更に、この学習指導要領の改訂を受け、「キャリア・パスポート」例示資料(平成31年3月)(以下 例示資料)が、各都道府県、各地域・各学校における実態に応じてカスタマイズすることを前提に文部科学省から示された。

本県の状況として、中学3年生(県内公立中学校)を対象とした「みやざきの教育に関する調査」(平成29年宮崎県教育委員会)において、将来の職業や生き方を「考えている」または、「ある程度考えている」と回答した生徒の割合は、88.5%と高い状況にある。一方で、高校新規卒業者と大学新規卒業者の1年以内及び3年以内の早期離職の理由で上位にある「実際に働いてみると仕事が自分に合わなかった」「職場の人間関係」への対応が課題となっている。そのため、「学ぶこと・働くことの意義の理解」「人間関係形成」への対応の1つとして、宮崎県教育振興基本計画(令和元年策定)で、「各学校段階における一貫したキャリア教育の推進」を位置付けている。

そこで、本研究では、本県の児童生徒の基礎的・汎用的能力の育成の手段の1つとして、小学校から高等学校までの連携を重視した、児童生徒の自己実現につなぐ宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを開発する。研究を進めるに当たっては、「児童生徒の自己実現につなぐ」ことを「基礎的・汎用的能力を育むこと」と捉えるが、基礎的・汎用的能力は、児童生徒の実態に応じて、どの程度身に付けさせるかは異なってくる。そのため、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの特色として、小学校から高等学校までの発達の段階を意識し、各学校がそれぞれの実態を踏まえて具体的能力(以下「身に付けさせたい力」)を目標として設定し、キャリア教育の計画、実践、評価、改善を容易にするものとする。宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの活用の在り方については、まず、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを、所属校である宮崎小学校の実態を踏まえてカスタマイズし、宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を作成する。次に、児童自らの学習状況やキャリア形成を見通させたり、振り返らせたりする等の学級活動(3)を要としつつ各教科等と往還した体系的な指導と、児童の記述を基に対話的に関わる系統的な指導において活用を図る。さらに、宮崎小学校の実践を通して、キャリア・パスポートが児童の基礎的・汎用的能力を高めることができているのか、有効性について検証することとする。

宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを開発することは、本県のキャリア教育の推進にも重要であると考え、本主題を設定した。

### Ⅲ 研究目標

小学校から高等学校までの連携を重視した、児童生徒の自己実現につなぐ、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを開発し、学校現場で活用することを通して、キャリア・パスポートの有効性について検証する。

### Ⅳ 研究仮説

例示資料の分析を基にした宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを開発して、学級活動(3)を要としつつ各教科等と往還した指導及び児童の記述を基に対話的に関わる指導に活用することで、基礎的・汎用的能力を効果的に高めることができるであろう。

### Ⅴ 研究内容

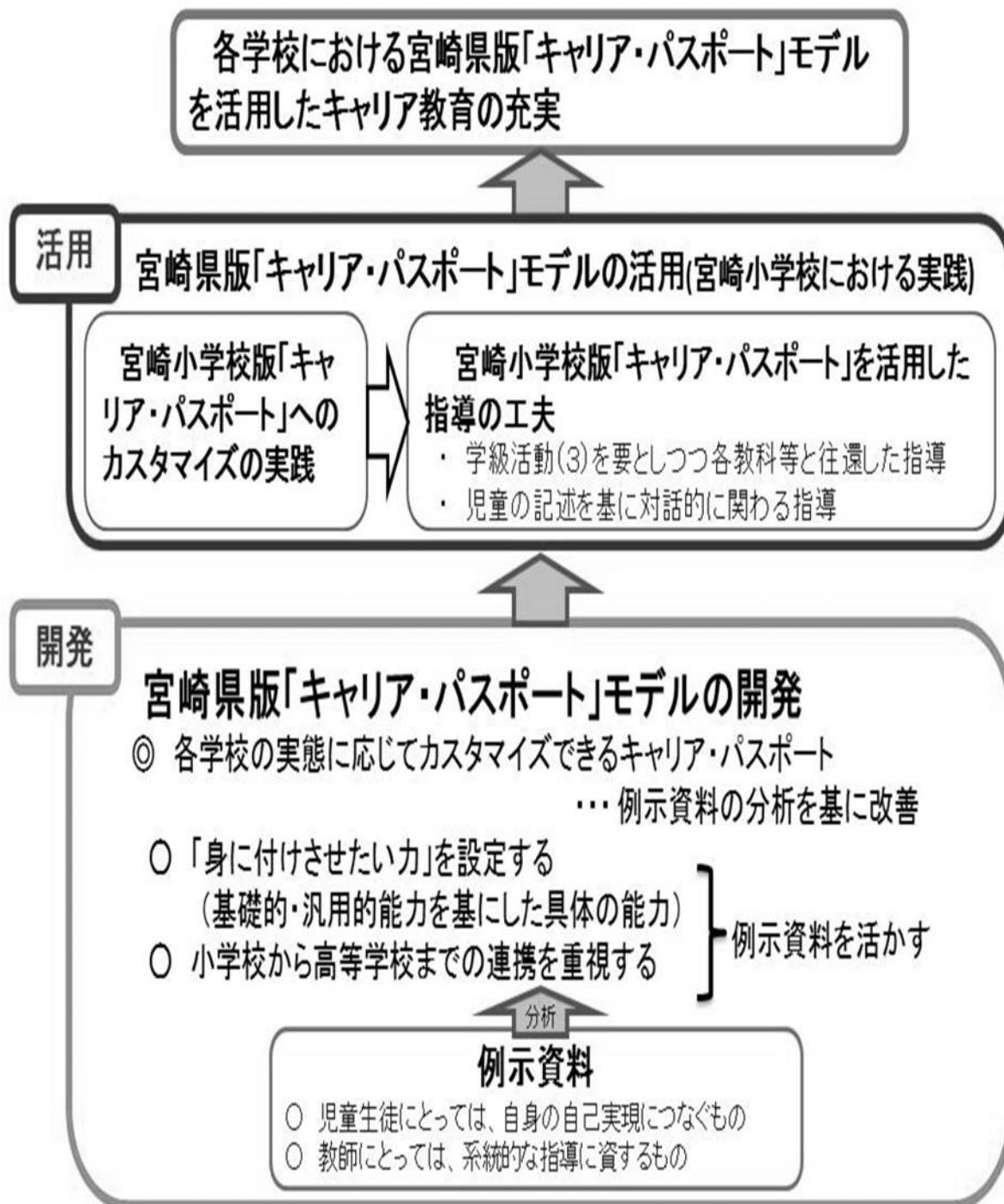
- 1 宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの開発
  - (1) 例示資料の分析
  - (2) 各学校の実態に応じてカスタマイズできる「キャリア・パスポート」モデル
- 2 宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの活用（宮崎小学校における実践）
  - (1) 宮崎小学校版「キャリア・パスポート」へのカスタマイズの実践
  - (2) 宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した指導の工夫

### Ⅵ 研究計画

月	研究内容	研究事項	研究方法
4	○ 研究の方向性	○ 研究主題・副題・仮説等の設定	○ 文献研究
5	○ 理論研究	○ 研究内容・研究計画の設定 ○ 理論の構築	○ 文献研究
6	○ 理論研究 ○ 実態調査1	○ 理論の構築 ○ アンケート分析	○ 文献研究 ○ 実態調査
7	3日：前期協議会 ○ 宮崎県版「キャリア・パスポート」モデル開発 ○ 検証授業Ⅰの構想・準備	○ 前期協議会を受けての理論の修正 ○ 例示資料の分析・県版の構想 ○ 検証授業Ⅰの学習指導案作成・資料準備	○ 文献研究 ○ 文献研究 ○ 文献研究
8	○ 校内研修の実施 ○ 検証授業Ⅰの実施 ○ 検証授業Ⅱ・Ⅲの構想	○ 理論と実践方法の周知 ○ 検証授業Ⅰの実践と分析 ○ 検証授業Ⅱ・Ⅲの学習指導案作成・資料準備	○ 授業実践 ○ 文献研究
9	○ 検証授業Ⅱの実施	○ 検証授業Ⅱの実践と分析	○ 授業実践
10	○ 検証授業Ⅲの実施	○ 検証授業Ⅲの実践と分析	○ 授業実践
11	○ 実態調査2	○ アンケート分析	○ 実態調査

12	10日：後期協議会	○ 後期協議会のまとめ	○ 文献研究
1	○ 研究のまとめ	○ 研究報告書の作成	
2	○ 研究のまとめ	○ パネルの作成	
3	10日：研究発表会 ○ 研究発表会の準備	○ 研究発表会の資料・プレゼン作成	

## VII 研究構想



## VIII 研究の実際

### 1 宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの開発

#### (1) 例示資料の分析

キャリア・パスポートは、児童生徒の小中高等学校 12 年間のキャリア形成をつなぐ教材であり、蓄積することを前提としている。例示資料では、キャリア・パスポートの目的や定義が以下のように整理されている。

##### キャリア・パスポートの目的

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。

教師にとっては、その記述を基に対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

##### キャリア・パスポートの定義

キャリア・パスポートとは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルでは、「児童生徒にとっては自己実現につながるもの」を「児童生徒が自身の基礎的・汎用的能力を育むこと」と捉え、教師にとっては、「系統的な指導に資するもの」を「小学校から高等学校までの連携を重視したキャリア・パスポート」と捉えた。

例示資料を分析すると、【表1】のような構造であることが分かった。また、例示資料の分析を基に、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルとして改善したい内容と理由【表2】を明確にした。

そこで、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルは、【表1】をそのまま活かし、かつ、【表2】を盛り込むように開発した。

【表1】例示資料の構造

内 容	作成者
1 校長メッセージ ※ 学校で「身に付けさせたい力」	学校
2 学年の見通し ※ 自己理解・実践内容等	児童生徒
3 学期の振り返りと見通し	児童生徒
4 学年の振り返りと次学年の見通し	児童生徒
5 行事の見通しと振り返り	児童生徒

【表2】 例示資料の分析を基に改善したい内容とその理由

	改善したい内容	理由
ア	小学校版にのみ「身に付けさせたい力」の例示があり、この部分を空欄にしたい。	各学校が、「身に付けさせたい力」を設定することで、児童の実態に応じたキャリア教育を実践することができるようにするため。
イ	中学校版に、生徒に「身に付けさせたい力」を自己評価させる項目を設けたい。	学校全体で、キャリア教育を体系的に指導することや指導計画を改善することを可能にするため。
ウ	中学校版に、生徒が「伸ばしたい力」を設定する際に、参考にする資料を充実させたい。	初めて「伸ばしたい力」を設定する中学1年生にも、理解させることができるようにするため。
エ	小学校から高等学校までのキャリア・パスポートに、児童生徒向けにキャリア・パスポートの意義を明記したい。	キャリア・パスポートが児童生徒自身の自己実現につながることを理解させることができるようにするため。

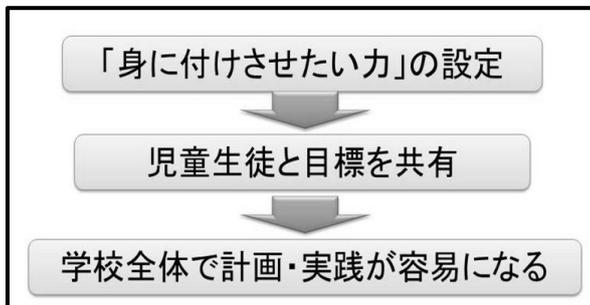
(2) 各学校の実態に応じてカスタマイズできる「キャリア・パスポート」モデル

「身に付けさせたい力」は、基礎的・汎用的能力を基に、各学校のそれぞれの実態を踏まえた具体の能力のことである。

ア 「身に付けさせたい力」を設定する

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」では、「基礎的・汎用的能力は、包括的な能力概念であり、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリア・プランニング能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。これらの能力を同じ程度あるいは均一に身に付けることは求められているものではない。」と述べられており、基礎的・汎用的能力は、児童生徒の実態によって、どの程度身に付けさせるかは異なってくる。そのため、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルでは、小学校から高等学校までの発達の段階を意識し、各学校が「身に付けさせたい力」を目標として設定し、キャリア教育の計画、実践、評価、改善を容易にするものとした【図1】。

【図1】 「身に付けさせたい力」を設定する意図



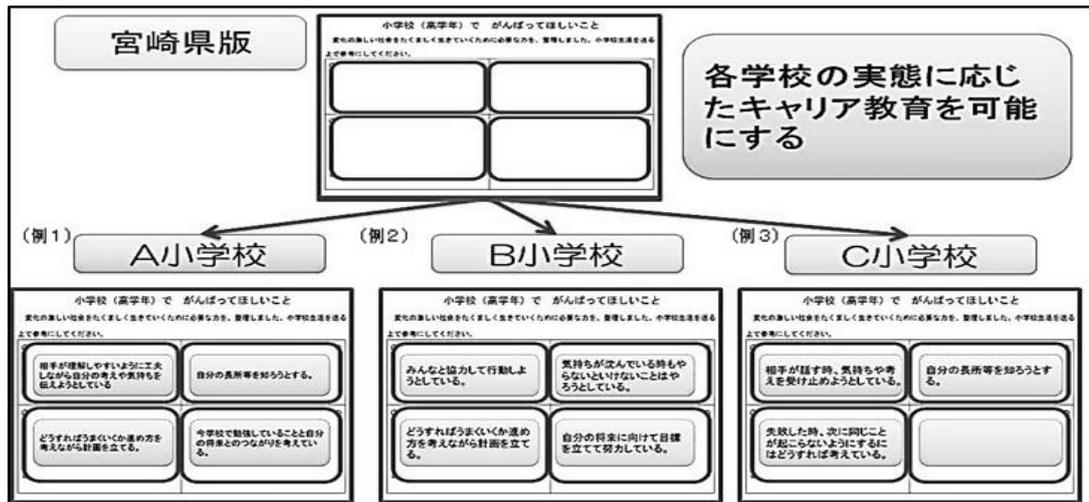
(7) 「身に付けさせたい力」を空欄にする(小学校版)

例示資料(小学校版)では、「身に付けさせたい力」について、【資料1】のように示されているが、あくまでも例である。【表2】アから、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデル(小学校版の項目『小学校でがんばってほしいこと』)では、各学校の実態に応じたキャリア教育を可能にするため、【図2】のように空欄にした。

**【資料1】「身に付けさせたい力」(例示資料)**

<p>小学校(高学年)で がんばってほしいこと</p> <p>変化の激しい社会をたくましく生きていくために必要な力を、整理しました。小学校生活を送る上で参考にしてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達や家の人の話を聞くとき、その人の考えや気持ちを分かろうとすること</li> <li>○ 自分の考えや気持ちを、相手にわかりやすく伝えようと気を付けること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 委員会、係、当番活動などで、自分から仕事を見つけたり、役割分担したりしながら、力を合わせて行動すること</li> <li>○ 好きでないことや苦手なことでも、自分から進んで取り組むこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べたいことや知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を集めたり、誰かに質問したりすること</li> <li>○ 何かをするとき、計画を立てて進めたり、途中でやり方に工夫したり、見直したりすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の夢や目標に向かって、生活や勉強の仕方を工夫する</li> </ul>

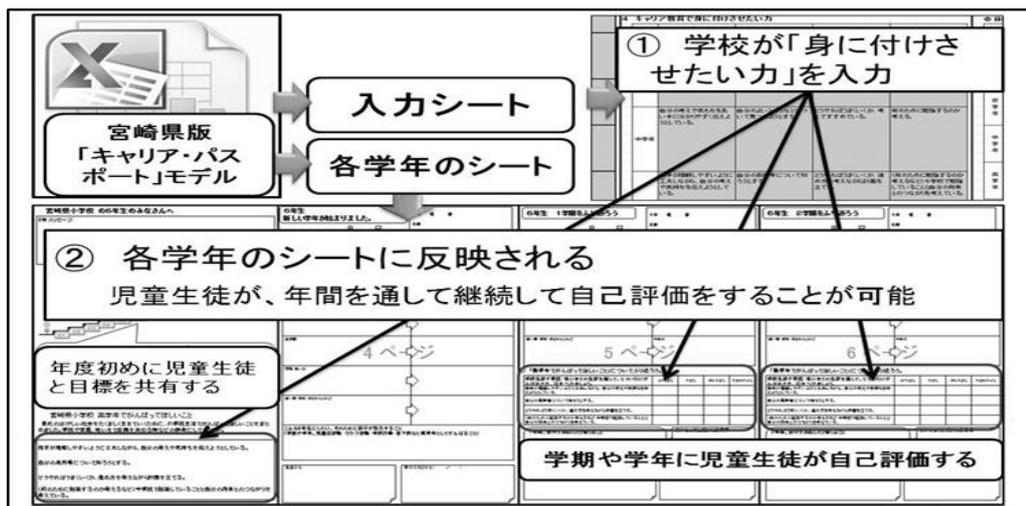
**【図2】宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルにおける「身に付けさせたい力」の記入例**



**(4) 表計算ソフトを活用する**

各学校で児童生徒の実態に応じたキャリア・パスポートの作成を容易にするために、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルは、表計算ソフトで作成し、「入力シート」に学校が「身に付けさせたい力」を入力すれば、「各学年のシート」に反映できる仕組みにした【図3】。その際に、具体的な設定の方法も示した。

**【図3】各学校がキャリア・パスポートを作成しやすくする工夫(宮崎県版「キャリア・パスポート」モデル)**

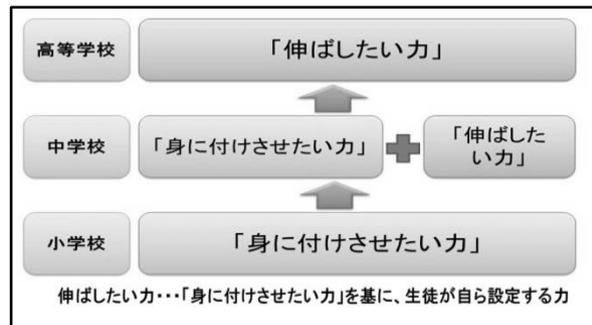


イ 小学校から高等学校までの連携を重視する

(7) 「身に付けさせたい力」を自己評価する項目を系統的にする

小学校版の例示資料では、児童に「身に付けさせたい力」を自己評価させる項目を設定させているが、中学校版は、設定させていない。そこで、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルは、【図4】のように、中学校版にも「身に付けさせたい力」を自己評価させる項目を設定した。高等学校版では、「身に付けさせたい力」を基に、生徒自身が伸ばしたいと思う力（以下「伸ばしたい力」）を自ら設定し、実践、評価、改善させることが重要であるため、例示資料と同様に設定していない。

【図4】宮崎県版「キャリア・パスポート」モデル  
で児童生徒に自己評価させる項目



中学校版でも、「伸ばしたい力」については、【図5】のように、生徒自身に設定させる項目を設定し、実践、評価、改善させる。さらに、「伸ばしたい力」について、中学校に入学したばかりの1年生でも設定できるような工夫を行った【資料2】。

【図5】生徒自身が設定する「伸ばしたい力」（中学校版） 設定（左）と自己評価（右）

【資料2】生徒が『伸ばしたい力』を設定する際に参考にする資料（一部抜粋）

（左）例示資料（右）宮崎県版「キャリア・パスポート」モデル

【人間関係形成・社会形成能力】	【人間関係形成・社会形成能力】								
<p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力</p> <p>＜例＞ 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど</p>	<p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 他者の個性の理解</td> <td>・ 友達や家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。</td> </tr> <tr> <td>○ 他者に働きかける力 ○ コミュニケーションスキル</td> <td>・ 自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすい工夫して、伝えようとする。</td> </tr> <tr> <td>○ チームワーク ○ リーダーシップ</td> <td>・ 人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。</td> </tr> </tbody> </table>	内容	例	○ 他者の個性の理解	・ 友達や家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。	○ 他者に働きかける力 ○ コミュニケーションスキル	・ 自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすい工夫して、伝えようとする。	○ チームワーク ○ リーダーシップ	・ 人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。
内容	例								
○ 他者の個性の理解	・ 友達や家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。								
○ 他者に働きかける力 ○ コミュニケーションスキル	・ 自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすい工夫して、伝えようとする。								
○ チームワーク ○ リーダーシップ	・ 人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。								

(4) キャリア・パスポートの意義を明記する

宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルでは、キャリア・パスポートの説明のページ【資料3】を追加し、児童生徒が、小・中・高を通して学ぶ意義を理解することができるようにした。

【資料3】児童生徒向けの説明 (左) 小学校版 (右) 中学校・高等学校版

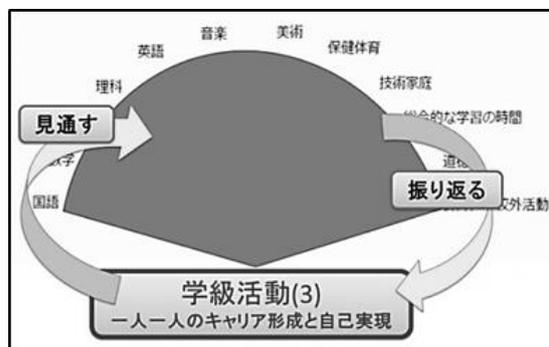


2 宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの活用 (宮崎小学校における実践)

宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルの有効性について検証するために、所属校である宮崎小学校において以下の視点を基に実践を行った。

- 1 宮崎小学校の実態に応じて作成する。  
全国学力・学習状況調査の結果等から、卒業時に目指す児童の姿を決定し、そこから「身に付けさせたい力」を設定した。
- 2 学級活動(3)を要としつつ各教科等と往還した指導及び児童の記述を基に対話的に関わる指導を行う。  
○ 学級活動(3)を要としつつ各教科等と往還した指導においては、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげる指導

【図6】学級活動(3)を要としつつ各教科等と往還的な関係

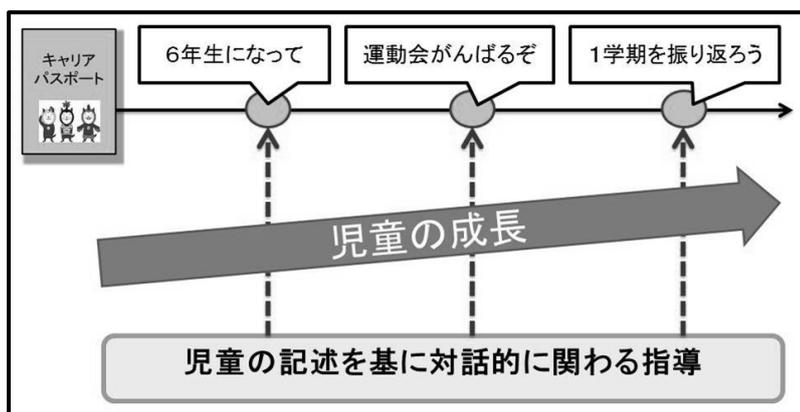


【図6】を以下の検証授業で行った。

	題材	ねらい
I	6年生になって	今後を『見通し』意思決定することをねらいとした。
II	運動会ががんばるぞ	学級又は学校の一員としての役割を果たすことで、自己実現を図ることにつながる『学校行事』において意思決定することをねらいとした。
III	1学期を振り返って	意思決定した目標を『振り返り』、新たな見通しをもち意思決定することをねらいとした。

- 児童の記述を基に対話的に関わる指導においては、児童生徒一人一人に成長を促し、自己変容の自覚や、児童の自己有用感の醸成に結び付けられるような記述による指導【図7】を検証授業の事後指導において行った。

【図7】児童の記述を基に対話的に関わる指導



#### (1) 宮崎小学校版「キャリア・パスポート」へのカスタマイズの実践

宮崎小学校で「身に付けさせたい力」を以下の手順で設定した。

- ア 児童にキャリア教育アンケートを行い、その結果と全国学力・学習状況調査の結果から基礎的・汎用的能力における課題を整理し、卒業時に目指す児童の姿を決定する。
- イ 設定した卒業時に目指す児童の姿を基に、『～する子ども』を、『(〇〇の時に)、△△しようとする (ことができる)』のように、児童が自己評価しやすいように設定する。

なお、宮崎小学校では、基礎的・汎用的能力の4つの能力をそれぞれ『関わる力』『自立する力』『考える力』『見通す力』で示しているため、本実践については、同様に表記する。

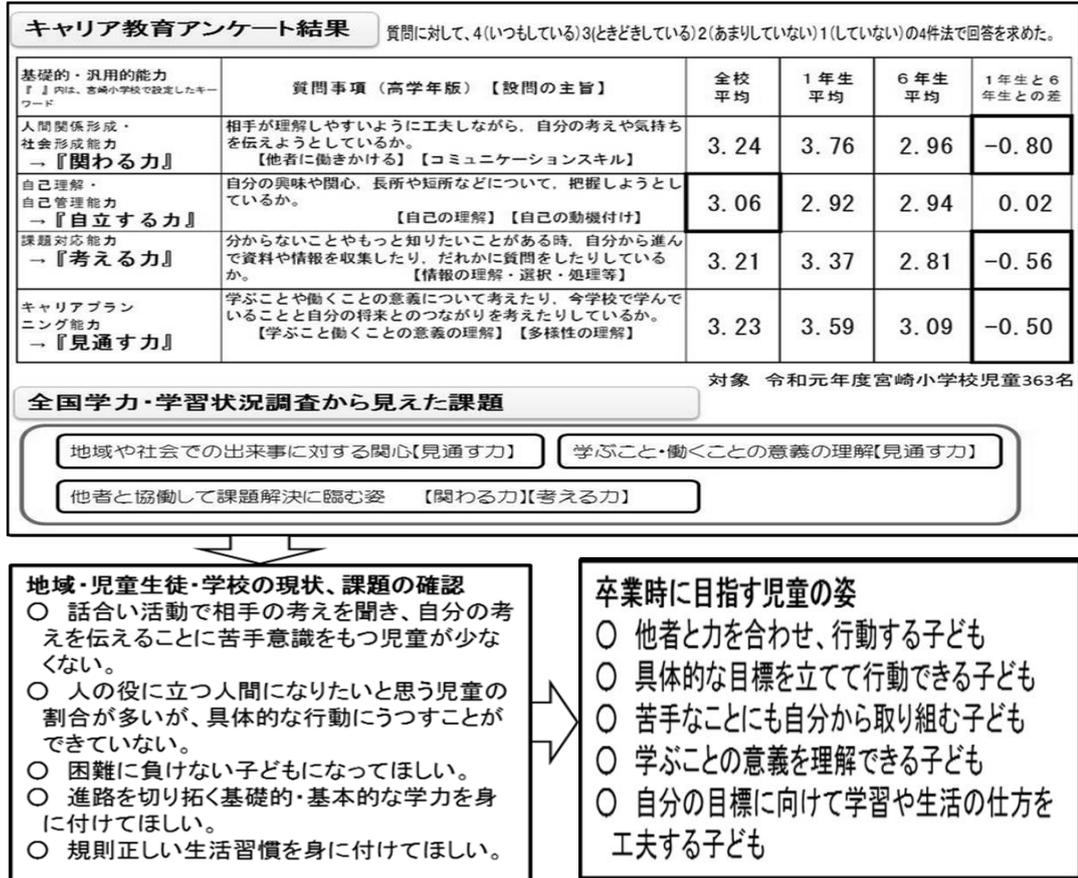
#### ア 卒業時に目指す児童の姿を決定する

キャリア教育アンケートについては、下記のとおり実施した。

- 対象 宮崎小学校 児童 363名
- 調査内容 小学校キャリア教育の手引き（平成23年 文部科学省）に示されている「基礎的・汎用的能力アンケート」に基づいて、項目を設定した。
- 調査方法 質問に対して、4（いつもしている）3（ときどきしている）2（あまりしていない）1（していない）の4件法で回答を求めた。
- 実施期間 令和元年6月

決定した卒業時に目指す児童の姿は、【図8】のとおりである。

【図8】宮崎小学校の現状と卒業時に目指す児童の姿



イ 宮崎小学校で「身に付けさせたい力」を設定する

卒業時に目指す児童の姿を基に設定した「身に付けさせたい力」は【図9】のとおりである。

【図9】宮崎小学校で「身に付けさせたい力」

<p style="text-align: center; font-weight: bold;">『関わる力』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">相手が理解しやすいように工夫しながら自分の考えや気持ちを伝えようとしている。</div> <p>低 ともだちとなかよくする。 中 自分の考えや気持ちをあい手に分かりやすく伝えようとしている。 高 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしている。</p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">『自立する力』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分の長所等を知ろうとする。</div> <p>低 じぶんのよいところをみつけようとする。 中 自分のよいところなどについて見つけようとする。 高 自分の長所等について知ろうとする。</p>
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">『考える力』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">どうすればうまくいか進め方を考えながら計画を立てる。</div> <p>低 いいほうほうをかんがえる 中 どうやればうまくいか、考えてすすめている。 高 どうやればうまくいか、進め方を考えながら計画を立てる。</p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">『見通す力』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">今学校で勉強していることと自分の将来とのつながりを考えている。</div> <p>低 もくひょうをきめてがんばる。 中 何のために勉強するのか考える。 高 (何のために勉強するのか考えるなど)今学校で勉強していることと自分の将来とのつながりを考えている。</p>

(2) 宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した指導の工夫

ア 学級活動(3)を要としつつ各教科等と往還した指導

(7) 検証授業I

検証授業Iは、各教科等と学級活動(3)の往還を考慮して、今後を『見通し』、意思決定することをねらいとして実施した。

授業実施日	令和元年8月29日(木)
対象児童	宮崎市立宮崎小学校 第6学年
題材	6年生になって

**a 本授業のめあて**

今後の学習や生活を『見通し』、自分に合った目標やそのためにすることについて意思決定することができる。

**b 本授業における宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した場面**

主な学習内容及び学習活動	
	<p><b>宮崎小学校で「身に付けさせたい力」について、共有する</b></p> <p>宮崎小学校で「身に付けさせたい力」は、将来の自分とつながっていることや、目標に向かって努力する意義について理解させた。</p>
	<p><b>今後を見通し、自分に合った目標や方法を意思決定する</b></p> <p>キャリア・パスポートで、なりたい自分の姿と今の自分の姿とを結び付けさせながら今後の見通しをもたせ、目標や活動内容を意思決定させた。</p>

**c 成果と課題(○成果●課題)**

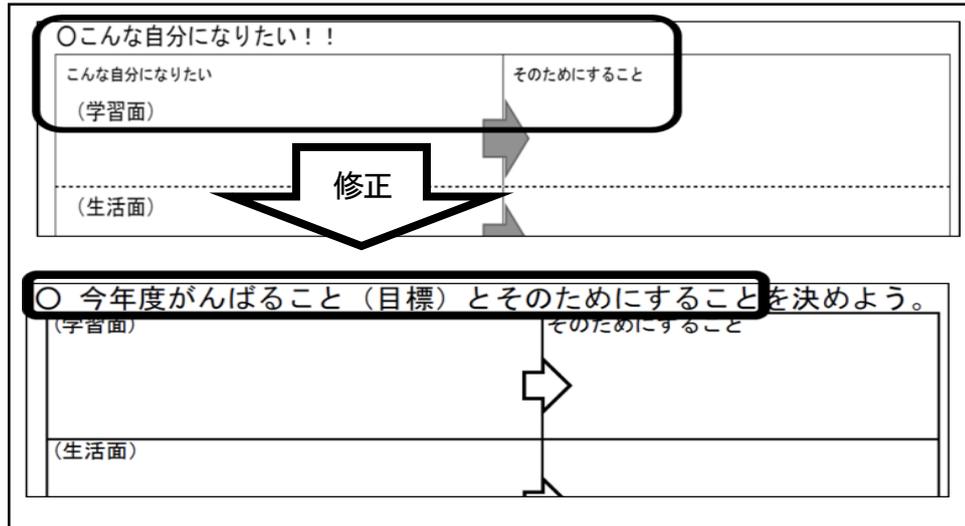
- 宮崎小学校で「身に付けさせたい力」を明確にすることで、児童と目標を共有して、今と将来とを結びつけながら指導することができた。
- 具体的な活動内容まで含めて意思決定させることで、事後に何を実践すればよいか明確にさせることができ、児童の実践意欲が持続した。
- 意思決定の場面において、「なりたい自分」という設問が抽象的で、イメージをもつことができないまま活動が滞ってしまう児童がいた。
- 自分の長所や将来の夢と目標とを結び付けることができない児童がいた。

**(イ) 検証授業Ⅱ・Ⅲに向けて(宮崎小学校版「キャリア・パスポート」の一部見直し)**

前項の課題を受けて、検証授業Ⅱ・Ⅲの前に、宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を一部見直すこととした。理由としては、検証授業Ⅰにおいて児童の活動が滞ったのが、宮崎小学校版「キャリア・パスポート」の「こんな自分になりたい、そのためにすること」の設問だったためである。そこで、宮崎小学校版「キャリア・パスポート」の意志決定に関する設問を見直した【図10】。このことで、夢がまだない児童でも、具体的な方法まで意志決定でき、その後の活動につながりやすいようにした。

また、【図10】の見直しについては、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデル開発の一助とした。

【図10】宮崎小学校版「キャリア・パスポート」の見直し（上）修正前（下）修正後



#### (4) 検証授業Ⅱ

検証授業Ⅱでは、学級又は学校の一員としての役割を果たすことで、自己実現を図ることにつながる『学校行事』において意思決定することをねらいとして実践した。

授業実施日	令和元年9月2日（月）から令和元年9月6日（金）までの5日間
対象児童	宮崎市立宮崎小学校 第4学年から第6学年
題材	運動会がんばるぞ

##### a 本授業のめあて

自分のよさを生かし、自分の成長につながるように、運動会の目標を意思決定することができる。

##### b 本授業における宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した場面

主な学習内容及び学習活動	
	<p><b>学習への見通しをもつ</b></p> <p>本時の学習の見通しを視覚的に示し、意思決定までの学習のプロセスや「キャリア・パスポート」にどんなことを記述するのか理解させた。</p>
	<p><b>今後を見通し、自分に合った目標や方法を意思決定する</b></p> <p>キャリア・パスポートで運動会に向けた目標や活動内容を意思決定させた。</p>

##### c 成果と課題(○成果●課題)

- 「一人ではできないことをみんなで取り組む楽しさを味わう」等、運動会の目標を設定させたことで、新たな学びの動機付けとなった。
- 自分のよさを見つめさせたことで、「ぼくは声が大きいから、全力で応援します。」「ぼくは、あきらめないでがんばる人になりたいから、最後まで一生懸命走ります。」等、自分の役割を果たそうとする児童の意思決定が見られた。

## (I) 検証授業Ⅲ

検証授業Ⅲでは、意思決定した目標を『振り返り』、新たな見通しをもち意思決定することをねらいとして実践した。

授業実施日	令和元年10月1日(火)
対象児童	宮崎市立宮崎小学校 第6学年
題材	1学期を振り返って

### a 本授業のめあて

意思決定した目標を『振り返り』、新たな学習や生活への意欲につなげながら今後の見通しをもち、目標に対する解決方法を意思決定することができる。

### b 本授業における宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した場面

主な学習内容及び学習活動	
	<b>意思決定した目標を振り返る</b> 見直した「キャリア・パスポート」を活用し、児童に努力した過程を振り返らせた。
	<b>今後を見通し、自分に合った目標や方法を意思決定する</b> キャリア・パスポートに、今後の目標や具体的な活動内容を意思決定させた。

### c 成果と課題(○成果●課題)

- 意思決定した目標や活動内容を振り返らせたことで、児童自身が努力した過程に気付くことができた。
- 宮崎小学校版「キャリア・パスポート」の「6年生になって」、「運動会がんばるぞ」で意思決定したそれぞれの目標や活動内容を関係付けて振り返り、自分の成長につなげている児童も見られた。
- 見直したキャリア・パスポートを活用することで、前回の検証授業で意思決定の際に活動が滞っていた児童も、【表3】のとおり、目標や活動内容を意思決定することができていた。
- キャリア・パスポートやワークシートといった複数枚のシートを比較しながら意思決定しなくてはならないため、活動が煩雑になる場面があった。キャリア・パスポートのファイリング等を工夫する必要がある。

【表3】意思決定の場面で、活動が滞っていた児童の自由記述

児童の感想
初めは「なりたい自分」を考えるのが難しかった。でも、2回目の授業は、
目標だったから書きやすかった。
夢や目標がまだ見つかっていないけど、今を頑張ることの大切さは分かった。

## イ 学級活動（3）における対話的に関わる指導について

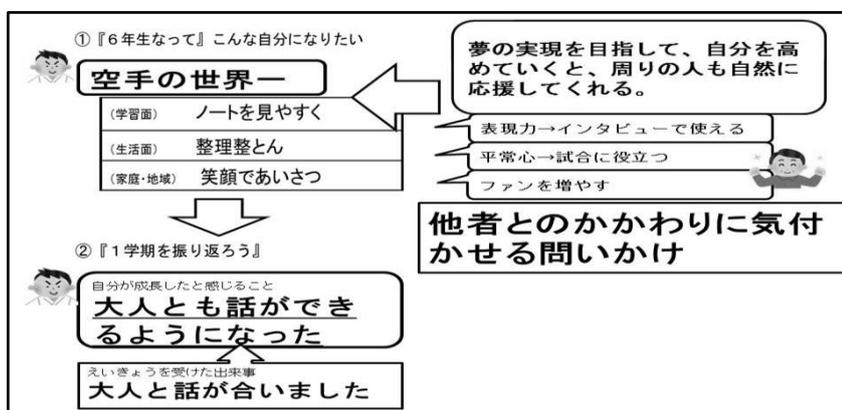
教師が、児童の宮崎小学校版「キャリア・パスポート」の記述を基に対話的に関わる指導について、2つの具体例を挙げる。なお、抽出した児童の実態は下記のとおりである。

児童の実態
A児…友達や教師とうまく人間関係を築くことが苦手で、自己肯定感が低い児童である。
B児…将来の夢がもてず、学習への支援を要する児童である。

### (7) A児の記述を基に対話的に関わる指導

A児は、友達や教師とうまく人間関係を築くことに苦手意識をもっている。そこで、教師は、自分を高めると周りの人も自然に応援してくれると「他者とのつながりに気付かせる問いかけ」を行った【図11】。すると、2回目の検証授業では、A児が大人とも話ができたと書いており、A児の記述が変わったことが分かった。教師が、対話的に関わることで、A児が意思決定後に他者とのつながりを意識したことが分かった。

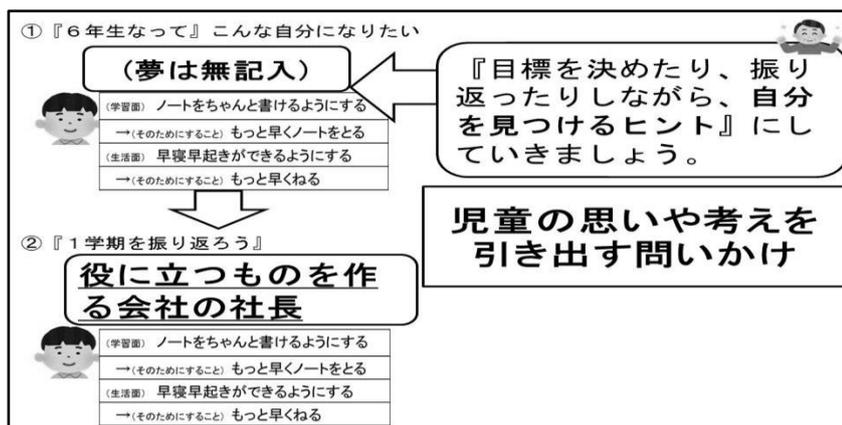
【図11】 A児の記述を基に対話的に関わる指導の内容



### (4) B児の記述を基に対話的に関わる指導

B児は、1回目の検証授業で、目標を記述していたが、夢についての記述がなかった。そこで、教師は、決めた目標を頑張る中で、自分を見つけるヒントにしようとして「児童の思いや考えを引き出す問いかけ」をした【図12】。すると、2回目の検証授業では、B児が夢を記述しており、児童の記述した内容が変わったことが分かった。教師が、問いかける記述をしたことで、B児の思いや考えを引き出すことができた。

【図12】 B児の記述を基に対話的に関わる指導の内容



## ウ キャリア教育アンケート結果

本研究においては、「身に付けさせたい力」として設定する能力の変容だけではなく、設定されていない能力との比較や関連から考察を行うため以下のアンケートを行った。なお、本アンケート結果は、児童の自己評価を根拠としているため客観的データではないが、児童自身による主観的な変容を見る指標とした。

○ 対象	宮崎小学校版「キャリア・パスポート」を活用した第4学年から第6学年児童 (事前188名、事後191名)
○ 調査時期	令和元年6月から令和元年11月までの5か月間

キャリア教育アンケートにおける平均値の変容は、【表4】のとおりである。

【表4】キャリア教育アンケート結果

	アンケート内容		4~6年		
	番号	設問 (高学年)	事前	事後	伸び
か か わ る 力	①	友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしているか。 【他者の個性の理解】	3.32	3.35	0.03
	②	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしているか。 【他者に働きかける】【コミュニケーションスキル】	3.07	3.17	0.10
	③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしているか。 【チームワーク】【リーダーシップ】	3.30	3.36	0.06
基 礎 的 ・ 汎 用 的 能 力	④	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしているか。 【自己の役割の理解】【自己の動機付け】	3.04	3.15	0.11
	⑤	気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしているか。 【忍耐力】【ストレスマネジメント】	3.21	3.27	0.06
	⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしているか。 【主体的行動】【前向きに考える】	3.13	3.12	-0.01
考 え る 力	⑦	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしているか。 【情報の理解・選択・処理等】	3.13	3.18	0.05
	⑧	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えているか。 【本質の理解】【原因の追究】【課題発見】	3.19	3.20	0.01
	⑨	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしているか。 【計画立案】【実行力】【評価・改善】	3.01	3.06	0.05
見 通 す 力	⑩	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしているか。 【学ぶことや働くことの意義の理解】【多様性の理解】	3.15	3.23	0.08
	⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えているか。 【将来設計】【選択】	3.18	3.24	0.06
	⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしているか。 【行動・改善】	3.19	3.16	-0.03

【表4】から、分かったことを以下のように整理した。

- ① 全体的に大きな変容は見られない。
- ② 「身に付けさせたい力」で設定した項目(番号②④⑦⑩)は、他の項目と比較すると伸びている。
- ③ 「身に付けさせたい力」に設定していない項目は、わずかではあるが8項目中6項目伸びている。(番号①③⑤⑧⑨⑪)

## Ⅹ 考察

本研究における実践を通しての考察は以下の通りである。

### 1 キャリア・パスポートは、児童生徒が自身の成長を継続的に自己評価できることが大切である

【表4】から、基礎的・汎用的能力の大きな変容は見られなかった。これは、調査期間が短いことから、短期間の活用では、効果が表れにくいことが要因であると考えられる。ただ、基礎的・汎用的能力が全般的にわずかに向上していることや、事後アンケートにおける児童の感想とその要因【表5】から、継続的に活用することで効果が高まることは期待できると推察する。

【表5】 事後アンケートにおける児童の感想とその要因

児童の感想		「要因」
C児	友達の長所などを見つけたり、 <u>自分の長所</u> を教えてもらったりしながら目標を立てられた。	自己理解に関する設問を設けた
D児	<u>何のための学習で、何ですか、したらどうなるのか</u> など、自分の目標に合わせた活動内容の設定や目標を達成したいという意欲が増した。	キャリア・パスポートの意義を示した
E児	キャリア・パスポートは分かりやすい。自分のためにいろいろ考えられて、 <u>活動内容に応じて計画を立てる</u> ことができるから自分の行動が前よりよくなった。	目標だけでなく、具体的な方法まで意思決定できる項目を設けた
F児	自分の気持ちに正直になって、キャリア・パスポートを書くことができた。そして、 <u>決めた目標を毎日がんばりたいと思える</u> ようになった。言われて決める目標ではなく、自分で決めることができる場所がいい。	
G児	<u>自分を振り返ることで、少しずつ自分の悪いくせが改善された</u> と思う。キャリア・パスポートを書いたことで自分のことがより分かった。	目標と自己評価の一体化を意識して開発した

### 2 キャリア・パスポートにおいて、「身に付けさせたい力」を設定することは、基礎的・汎用的能力を高めることにつながる

「身に付けさせたい力」を設定することで、児童と目標を共有でき、学年や学校全体で実践ができた。このことにより、学校が設定した「身に付けさせたい力」が他の力よりも伸びたと考えられる。また、【表4】から「身に付けさせたい力」に設定していない基礎的・汎用的能力においても伸びていること

から、相互に関連・依存ながら副次的に伸びたのではないかと推察することができる。今後は、中学校、高等学校において生徒が設定する「伸ばしたい力」について、設定の方法や育成のための指導過程を含め、学年や校種を越えて考えていく必要があると考える。

### 3 キャリア・パスポートの活用においては児童生徒に実践したいことを意思決定させることが大切である

事後アンケートにおける児童の感想とその要因【表6】C児、D児、E児、F児、G児の記述から、これからの学習への取り組み方や生活の仕方等をよりよくすることの大切さを理解していることが伺える。このことは、児童一人一人が、自分（の将来）のために意思決定するができたことで、課題解決に向けて自主的に取り組もうとする意欲が向上しているからであると推察する。

【表6】事後アンケートにおける児童の感想とその要因

児童の感想		「要因」
C児	友達の長所などを見つけたり、 <b>自分の長所を教えてもらったりしながら目標を立てられた。</b>	集団思考を通して、多様な意見に触れさせた
D児	何のための学習で、何をするのか、したらどうなるのかなど、自分の目標に合わせた活動内容の設定や目標を <b>達成したいという意欲が増した。</b>	学ぶ意義を理解させた
E児	キャリア・パスポートは分かりやすい。自分のためにいろいろ考えられて、活動内容に応じて計画を立てることができるから <b>自分の行動が前よりよくなった。</b>	目標だけでなく、具体的な方法まで含めて意思決定させた
F児	自分の気持ちに正直になってキャリア・パスポートを書くことができた。そして、 <b>決めた目標を毎日がんばりたいと思える</b> ようになった。言われて決める目標ではなく、自分で決めることができるところがいい。	
G児	自分を振り返ることで、 <b>少しずつ自分の悪い癖が改善された</b> と思う。キャリア・パスポートを書くことで、自分のことがより分かった。	振り返りを行わせた

### 4 キャリア・パスポートを活用した学級活動（3）において各教科等と往還した指導は有効である

学級活動（3）の実践から、【表7】E児、G児の結果を得られたことで、学級活動（3）と各教科等との往還した指導は有効であるといえる。これは、児童の1学期を総括して書いた作文【資料4】からも分かるように、見通したり、振り返ったりすることで、自己理解を深め、目標の達成に向けて粘り強く取り組む態度や、日常生活をよりよくしていこうとする態度を養うことにつながったと推察する。

今後は、学級活動（3）が、個々の児童生徒の将来に向けた自己実現に関わるものであることから、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践につなげていくことをねらいとする学習過程の在り方についての研究を深めていく必要がある。また、各学校で、キャリア形成に大きく関わる道徳教育や総合

的な学習の時間等の各教科等を通じた日々の学びや、地域・企業との連携による体験を通じた学びをさらに充実させることも重要であり、【図13】のような学びの往還が必要であると考えられる。

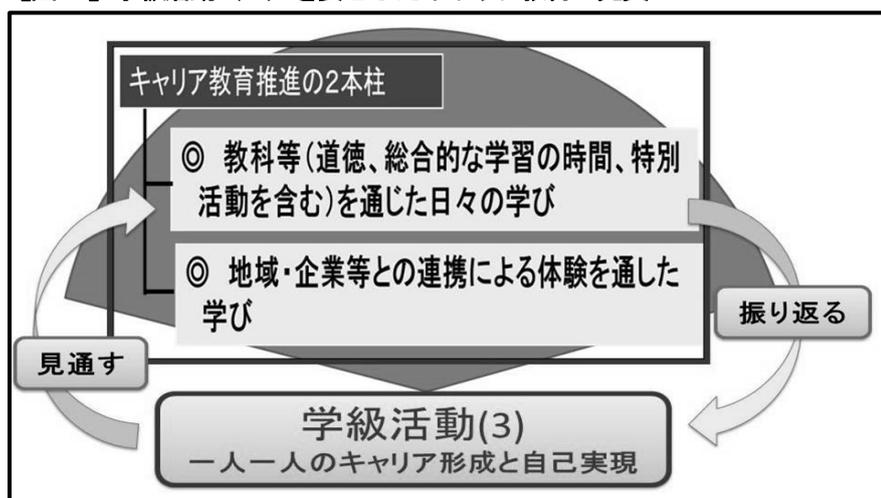
【表7】 各教科等と往還した指導に関する児童の感想とその要因

児童の感想		「要因」
E児	キャリア・パスポートは分かりやすい。自分のためにいろいろ考えられて、 <b>活動内容に応じて計画を立てる</b> ことができるから自分の行動が前よりよくなった。	目標だけでなく、具体的な方法まで含めて意思決定させた
G児	<b>自分を振り返る</b> ことで、少しずつ自分の悪い癖が改善されたと思う。キャリア・パスポートを書くことで、自分のことがより分かった。	振り返りを行わせた

【資料4】 児童の作文『努力した1学期』

一学期をふり返って、私がかん張ったことは、「学習」「生活」「運動会」の三つです。  
 (中略) 三つ目は、運動会です。(中略) ダンスでは、自分の中で、「体を大きく使って、間ちがえないでおどる」という目ひょうを立て、この目ひょうがたつ成できたと思います。おどる前は、すごくきんちょうしていたけれど、おどっている時は、とても楽しくてもう一度おどりたくなりました。  
 (中略) 一学期は、**学習と運動会で自分のよさを発きできた**と思います。また、学級では、ハッピー係として、学級をよりよくするために、クラスの人々によびかけをしたり、交流の友達に声をかけたりしてきました。二学期は、**自分のよさを生かして、友達や学級のた**  
**めにもっと自分を成長させていきたい**と思います。

【図13】 学級活動(3)を要としたキャリア教育の充実



## 5 児童生徒の記述を基に対話的に関わる指導は有効である

今回の実践で、教師が児童の記述を基に対話的に関わる指導を行ったことで、児童の変容が見られた。教師の児童の思いや考えに寄り添ったり、引き出したりする等の児童のキャリア形成につながる記述は、児童生徒にとって自分の思いや考えを他者から認められることにつながっていると考えられる。このことが、児童一人一人の多様なよさや可能性に気付かせる等、児童の成長を促すことにつながっているのではないかと推察する。

また、【資料5】は、児童の記述を基に対話的に関わり、児童の実践意欲を持続させていた学級担任のキャリア・パスポートを活用した感想である。

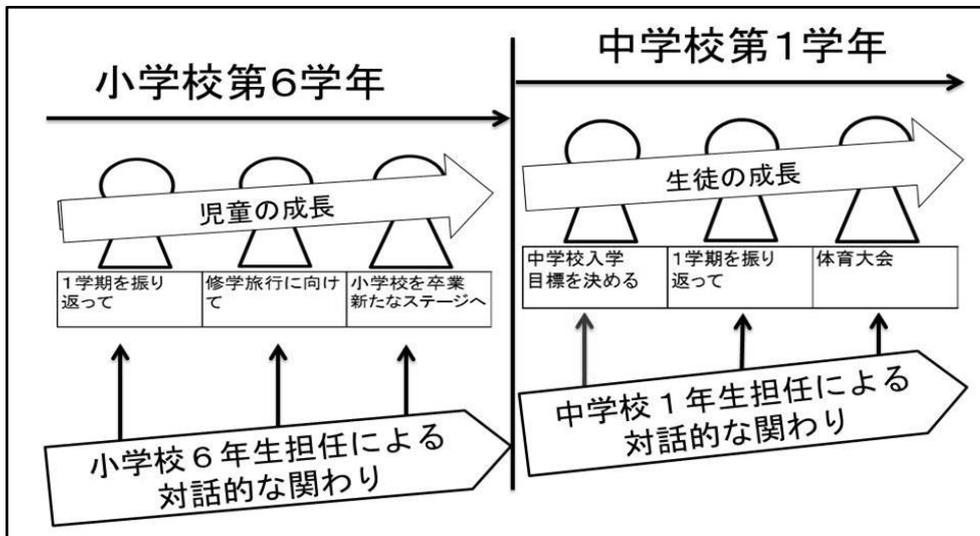
**【資料5】事後アンケートにおける教師の自由記述**

キャリア・パスポートの授業をきっかけに、子どもたちが生活カードの中に、次はこんなことをがんばりたいという内容を書くことが増えた。また、自然に振り返りをしている子どもの姿が見られた。教師が、キャリア・パスポートに記述したことを基に、児童の実践に対して意識して声かけをすることが増えた。

【資料5】から、教師が対話的に関わる指導をきっかけにして、児童理解を深めることにつながっていると考える。以上のことから、教師が児童の記述を基に対話的に関わる指導は有効である。

ただし、今回の実践では、学年間、校種間を越えた実践を行うまでには至っていない。【図14】のように、学年間や校種間を越えて系統的な指導を行い、その有効性について検証を行う必要があると考える。そのためにも、ファイリング等の手立てを行い、キャリア・パスポートを学年や校種を越えて引き継ぐ等、指導体制を確立する必要があると推察する。

**【図14】校種を越えた教師の対話的に関わる指導**



**X 研究のまとめ**

キャリア教育では、『各学校が、「身に付けさせたい力」をどのように設定し、どう実践するかが肝要になる。』ことから、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを開発するに当たり、各学校の実態に応じてカスタマイズすることができる汎用性のあるキャリア・パスポートを開発する必要があると考え、本研究を進めてきた。

本研究の実践により、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルは、継続的に活用することで、子どもたちの学びを連続的かつ全般的に成長させるものであることが確認できた。そのためにも、宮崎県版「キャリア・パスポート」モデルを活用し、学級活動(3)を要としつつ各教科等との往還を行う指導及び対話的に関わる指導を行うことは重要である。今後、各学校においては、学級活動(3)の指導の在り方について研究を深めるとともに、児童生徒のキャリア形成に大きく関わる各教科等におけるキャリア教育の充実を図る必要がある。児童生徒の記述を基に対話的に関わる指導については、キャリア・パ

スポーツを学年や校種を越えて持ち上げらせ、小学校から高等学校までの連携を重視した指導を行う体制を確立する必要がある。このことについて、本研究の考え方が、次年度以降の各学校での実践の一助となれば幸いである。

今後も、「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎の人づくり」のために、本県の教育を充実・発展させていきたい。

参考・引用文献等

- |  |   |
|--|---|
| 「小学校学習指導要領」  | (平成 29 年 3 月 文部科学省)                     |
| 「小学校学習指導要領解説特別活動編」   | (平成 29 年 7 月 文部科学省)                     |
| 「小学校キャリア教育の手引き」  | (平成 23 年 11 月 文部科学省)                    |
| 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」                              | (平成 30 年文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター) |
| 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」 | (平成 28 年 12 月)                          |
| 「宮崎県教育振興基本計画」  | (令和元年 宮崎県教育委員会)                         |
| 「雇用人財育成・確保対策特別委員会資料」   | (平成 30 年 宮崎県)                           |

《実践協力校 宮崎市立宮崎小学校》